

ハンドブック ワンポイント レッスン

知っておきたい規則とルール

Question

娘が中学生でソフトテニスをしている父兄です。先日の学校対抗戦での出来事ですが、取扱いについて疑問がありましたので質問させていただきます。

3ゲーム目の途中で正審(生徒)が、ポイントカウントを誤っていた。

本来は4-0で3ゲーム目が終了であるはずだが、3-1の誤ったカウントのまま5ポイント目が続行されました。

しかし、そのポイントの終了後に、プレーヤーからポイントカウントの誤りを指摘され、正審も誤りに気付いたが、どのようにしたらよいか判らずにマッチを中断し、自分の学校の顧問の先生に判断を仰ぎました。

顧問の先生は、3ゲーム目は4-0に訂正し、サービスとサイドのチェンジをさせ、誤りに気付かなかったポイントは有効として、4ゲーム目のポイントカウントを0-1から開始させました。

この取扱いで正しいのでしょうか。

Answer

ポイントカウントの訂正はそのゲーム内であれば可能。ただし、さかのぼって訂正し決着した場合、それ以降に行なったポイントは無効

ご質問のような場合、4ゲーム目のスタートが逆クロスで始まる(0-1)ことはあり得ません。ゲームの始まりは順クロスから始まりません。従って誤っています。

さて、ご質問の正審がポイントカウントを誤った場合の取扱いですが、審判規則第14条(再判定)の[解説25]の2に「ポイントカウントの誤りについてはそのゲーム内に再判定を行うものとする。」とあり、その再判定が3ゲーム目は4-0に訂正され、4ゲーム目の入り方が0-1から始めるように言われた事に対して、競技規則第43条(提訴)の[解説19]に「ポイントカウントの誤りについてはそのゲーム内に提訴する事が出来る。」とあるので、4ゲーム目の開始前に提訴しなければなりません。提訴は次のポイントに入ると行う事が出来ないからです。次のポイントとは、サービスをやるプレーヤーが、サービスをしようとして、手からボールを放した瞬間までをいいます。

従って、今回の場合は3-1の誤ったポイントでプレーが続行され、そのポイントが終了した時点で、プレーヤーから誤りを指摘(質問)しており、タイミング的にはよく、訂正できます。

しかし、さかのぼって訂正し決着した場合、それ以降に行なったポイントは無効とし、4ゲーム目は0-0から開始しなければなりません。

この度の質問があった時に、顧問の先生がハンドブックを持っておられて、該当する条文を理解されていたらこのような過ちは起きなかったと思いますし、定かでない時は必ずレフェリー(審判委員長)に連絡して解決策を見つけ出しましょう。

(財)日本ソフトテニス連盟審判委員会では、中学生の大会等にはコート主任としてハンドブックの内容を十分理解されている指導者若しくは顧問の先生にも顧問としての役割とともに、大会運営にご協力をいただく事をお願いしております。競技規則に関する問題が起きた時はレフェリーに相談してください。

【関連規則】

競技規則第43条(提訴) [解説19]、審判規則第14条(再判定) [解説25] 2

